

みずほマーケット・トピック(2020年9月4日)

週末版

内容 1. 為替相場の動向

2. 来週の注目材料

※誠に恐れ入りますが、「3. 本日のトピック」はお休みさせていただきます。

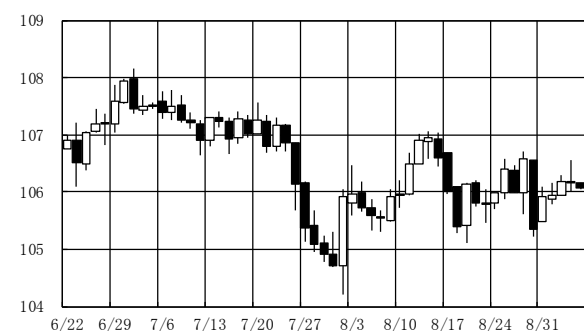
1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

- 今週のドル/円相場は緩やかに上昇する展開。週初 31 日、105 円台半ばでオープンしたドル/円は、月末における実需の円買いに一時週安値となる 105.29 円まで下落。その後、円買いは一服し、ドル/円は 106 円台にのせるも、米長期金利の低下を背景に上値の重い展開となった。1 日には、ドル/円は 105 円台後半まで値を下げたが、安倍首相退任後のアベノミクス継続期待や米 8 月 ISM 製造業景気指数の良好な結果を好感すると、ドル/円は 106 円台前半まで上昇した。2 日にかけてもドルが買われる展開。後半にかけて、米 8 月 ADP 雇用統計の悪化を背景に 106 円台前半まで反落するも、ユーロ売りが継続したことを受けて 106 円台で揉み合い推移となった。3 日には、前日に続いてユーロ売り・ドル買いの動きが強まると、ドル/円は一時週高値となる 106.55 円まで上昇したが、米長期金利の低下に 106 円台前半まで反落した。本日は今晚に米 8 月雇用統計を控える中、ドル/円は 106 円台前半での小幅な値動きとなっている。
- 今週のユーロ/ドル相場は、年初来高値を更新後、下落に転じる展開。週初 31 日、1.19 台前半でオープンしたユーロ/ドルは、ロンドン市場が休場となる中、ユーロ/円やユーロ/ポンドの上昇、月末絡みのドル売りにサポートされ 1.19 台後半まで上昇した。1 日には、ユーロ/ドルは一時年初来高値となる 1.2014 まで上昇したが、利益確定の売り意欲も強く、米 8 月 ISM 製造業景気指数の結果を受けたドル買いもあいまって 1.19 台前半まで反落した。2 日はユーロ/ドルは、1.18 台半ばまで続落するも、米 8 月 ADP 雇用統計の悪化を受けたドル売りに 1.18 台後半まで上昇。しかし、ユーロの戻り売りも散見される中、ユーロ/ドルは、1.18 台前半まで下落した。3 日は、ECB 高官らがユーロ高を懸念しているとの報道を受けてユーロ売りが強まると、ユーロ/ドルは一時週安値となる 1.1789 まで下落したが、米長期金利の低下を受けたドル売りに 1.18 台前半まで値を戻した。本日にかけても、ユーロ/ドルは 1.18 台前半での取引となっている。

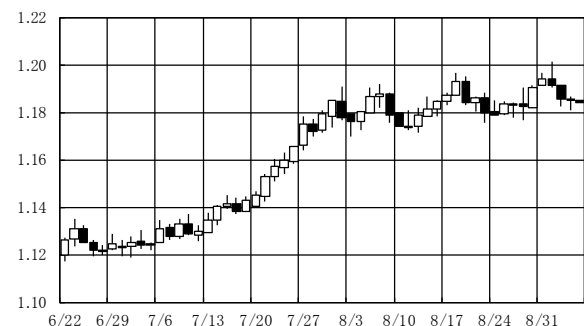
今週のおもな金融市場動向(出所:ブルームバーグ、みずほ銀行)

		前週末	今 週				
		8/28(Fri)	8/31(Mon)	9/1(Tue)	9/2(Wed)	9/3(Thu)	
ドル/円	東京9:00	106.66	105.54	106.00	105.89	106.21	
	High	106.94	106.09	106.15	106.30	106.55	
	Low	105.20	105.29	105.60	105.86	106.00	
	NY 17:00	105.36	105.93	105.95	106.19	106.18	
ユーロ/ドル	東京9:00	1.1820	1.1917	1.1939	1.1922	1.1846	
	High	1.1920	1.1966	1.2014	1.1929	1.1865	
	Low	1.1811	1.1885	1.1901	1.1822	1.1789	
	NY 17:00	1.1905	1.1937	1.1912	1.1854	1.1852	
ユーロ/円	東京9:00	126.07	125.74	126.54	126.29	125.83	
	High	125.76	126.85	127.06	126.30	126.01	
	Low	125.21	125.41	126.15	125.57	125.30	
	NY 17:00	125.45	126.35	126.21	125.90	125.86	
日経平均株価		22,882.65	23,139.76	23,138.07	23,247.15	23,465.53	
TOPIX		1,604.87	1,618.18	1,615.81	1,623.40	1,631.24	
NYダウ工業株30種平均		28,653.87	28,430.05	28,645.66	29,100.50	28,292.73	
NASDAQ		11,695.63	11,775.46	11,939.67	12,056.44	11,458.10	
日本10年債		0.05%	0.04%	0.04%	0.04%	0.03%	
米国10年債		0.72%	0.70%	0.67%	0.65%	0.63%	
原油価格(WTI)		42.97	42.61	42.76	41.51	41.37	
金(NY)		1,974.90	1,978.60	1,978.90	1,944.70	1,937.80	

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

米国では、今晚4日(金)に8月雇用統計が発表される。前回7月の非農業部門雇用者数は前月比176万人増と市場予想(同148万人増)を上回ったが、6月の479万人から改善ペースは大きく鈍化した。民間部門雇用者数は同146万人増に留まった。内訳を見ると、娯楽・接客業をはじめとするサービス業の増加が太宗を示しており、製造業や建設業などは数万人規模の小幅な増加となった。失業率に関しては、7月の結果は10.2%と前回6月から0.9%ポイント改善した。5月以降、3か月連続での改善となり、引き続き新型コロナウイルス感染が拡大によって一時的に職を失った層が段階的に労働市場に戻っている状況が続いている。平均時給の伸びは前月比+0.2%と市場予想の同▲0.5%を上回り、3か月ぶりの増加に転じた。賃金が低い業種の雇用改善が鈍化したことで平均時給は上昇した点が要因となった。米国の労働市場の改善は次第に進んではいるものの、一部では、経済政策による労働市場の押上げが一服しつつあることや新型コロナウイルスの感染の再拡大が意識されることで、今後にかけて新規の就労機会が狭まる点が懸念されている。なお、ブルームバーグの予想では、8月の非農業部門雇用者増加数を前年比135万人の増加と一段と上昇ペースが鈍化すると見込んでおり、失業率については同9.8%と小幅な改善を見込む。また、8月平均時給は前月比で横ばいの推移を見込んでいる。

- ・ 欧州では、10日(木)にECB政策理事会の開催を控える。前回7月会合では事前予想通り、現状維持となった。主な争点となっていたパンデミック緊急購入プログラム(PEPP)利用枠に関して、ラガルド ECB 総裁は会合後の会見で PEPP には金融市場の分断化に対処し、金融政策の波及効果を修復させ、経済収縮に対応する緩和措置の役割を持つと説明し、最大限活用していくとの方針を示した。また、ターゲット型長期流動性供給第三弾(TLTRO3)に関しては、適用金利減免の措置が奏功し、設定過去最大の規模の入札額に上った点を成果として評価した。その一方で、今後の実体経済への波及効果に関して注視していく方針であることも述べられた。そのほか、金融政策の戦略見直しに関しては、依然景気の先行き不透明感が漂う中、現状の政策効果を見極める観点から、1年ほど策定が後ろ倒しになることが言及された。そのため、今回会合に関しては、拡大資産購入プログラム(APP)での新型コロナウイルス対策の増枠分が天井に接近している中で、増枠の決定を下すかどうかが主な争点となりそうだ。

	本 邦	海 外
9月4日(金)	—————	・米8月雇用統計
7日(月)	—————	・米休場
8日(火)	・4～6月期GDP(確報) ・7月国際収支	・4～6月期ユーロ圏GDP(確報)
9日(水)	・8月工作機械受注(速報)	・米7月JOLT求人件数
10日(木)	・20年物国債入札	・米8月PPI ・ECB政策理事会
11日(金)	・8月国内企業物価指数	・米8月CPI ・EU財務相理事会(12日まで)

【当面の主要行事日程(2020年9月～)】

ECB政策理事会(9月10日、10月29日、12月10日)
 米FOMC(9月15～16日、11月4～5日、12月15～16日)
 日銀金融政策決定会合(9月16～17日、10月28～29日、12月17～18日)
 G20財務相・中央銀行総裁会合(10月15～16日)

市場営業部・金融市場部
 チーフマーケット・エコノミスト
 唐鎌大輔(TEL:03-3242-7065)
daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です

<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html> (Archives) http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2020年9月3日	アベノミクス総括その②～なぜ円安になったのかを知るべき～
2020年9月2日	「真のリスクオフ通貨」になれるかの瀬戸際～試されるユーロ～
2020年9月1日	アベノミクス総括～「金融政策の無効性」という「地味な偉業」～
2020年8月28日	週末版(FRB戦略見直しとパウエル講演について～「アベレージ・ターゲット」という現状追認～)
2020年8月26日	腰折れたままの米消費者マインド～株価に連動しない誤算～
2020年8月24日	ECB政策理事会議事要旨～PEPP「全部使う」が公式見解～
2020年8月21日	週末版(FOMC議事要旨を受けて～ほぼ完全に否定された米国版YCC～)
2020年8月20日	米大統領選挙・議会選挙と為替市場の関係について
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2020年7月分)
2020年8月18日	「ドル化した世界」におけるドル相場の限界
2020年8月17日	ECBの資産購入運営の現状～PSPPとPEPPの乖離～
2020年8月14日	週末版(ユーロ/ドルは購買力平価(PPP)に向かっているのか?～「1.20」台復帰を目指して～)
2020年8月12日	2020年上半期の円の基礎的需給環境について
2020年8月11日	全てを押し上げているのは実質マイナス金利なのか?
2020年8月7日	週末版
2020年8月4日	米製造業マインドよりも心配な米消費者マインド
2020年8月3日	「ユーロにあって円に無いもの」～基軸通貨性を考える～
2020年7月31日	週末版
2020年7月28日	「ドル売りの受け皿」がテーマ～過去最大の欧米逆転～
2020年7月27日	ユーロ上昇の理由～金利差縮小よりドル過剰感～
2020年7月22日	週末版
2020年7月21日	欧州銀行の貸出態度調査～ロックダウンの深手～
2020年7月20日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2020年6月分)
	臨時EU首脳会議で透けて見えた「第三の亀裂」
2020年7月17日	週末版(ECB政策理事会を終えて～PEPPは使い切り、2つの機能」に向けて～)
2020年7月16日	ユーロ相場の近況について～上昇の瀬戸際～
2020年7月15日	臨時EU首脳会議～交錯する「2人の議長」～
2020年7月14日	円相場の基礎的需給環境の現状と展望
2020年7月13日	ECBプレビュー～ラガルドインタビューは現状維持を示唆～
2020年7月10日	週末版
2020年7月9日	カレンシーボードに迫る脅威～米国の「諸刃の剣」～
2020年7月8日	増枠分の天井に近づいたECBの拡大資産購入プログラム(APP)
2020年7月7日	対外直接投資はこれからも増えるのか?
2020年7月3日	週末版(明らかに「物価差なき世界」～金利と共に失われる為替の変動要因～)
2020年7月2日	金価格が上がっている理由～リスクオフという方便～
2020年7月1日	円相場の需給環境～ストック円高、フロー円安～
2020年6月26日	週末版(IMF、GFSR改訂を受けて～「実力以上の株価」という必要悪～)
2020年6月25日	ユーロ相場はなぜ堅調なのか?
2020年6月23日	メルケル首相に託されたEU復興基金の先行き
2020年6月22日	ECB、「真のバズーカ」と「影の政策金利」
2020年6月19日	週末版
2020年6月18日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2020年5月分)
	香港ドル相場の現状と展望～ベッグ崩壊の現実的な可能性は～
2020年6月17日	二番底はメインシナリオの1つとして見るべきか
2020年6月15日	29年連続「世界最大の対外純資産国」の読み解き方
2020年6月12日	週末版(EU首脳会議プレビュー～メルケル首相への花道論も～)
2020年6月11日	FOMCを終えて～当分失われそうなるドル/円のボラティリティ～
2020年6月9日	米国はいずれ通貨政策に訴えかけるのか?～特権の行使～
2020年6月8日	金利上昇を容認したFRBと視野に入るYCC
2020年6月5日	週末版(ECB政策理事会を終えて～2022年末までバランスシート残高は高止まり～)
2020年6月4日	明らかにされたパンデミック緊急購入プログラムのお全貌
2020年6月3日	米個人消費・所得、急変動に透けて見える日本化の胎動
2020年5月29日	週末版(ECB政策理事会プレビュー～PEPPに孕む隠蔽リスク～)
2020年5月27日	最近の元安・ドル高相場の読み方
2020年5月26日	IMF「国際金融安定報告」続報から読み取れるもの
2020年5月22日	週末版(EU復興基金設立の現状と展望～立ちほだかる「新ハンザ同盟」の壁～)
2020年5月20日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2020年4月分)
	コロナショックは反グローバルの「とどめ」なのか?
2020年5月19日	アフターコロナの世界で定着しそうな「皮肉な株高」
2020年5月15日	週末版(マイナス金利を正当化したECB論文～「次の一手」としての深掘りを予見させるものか?～)
2020年5月14日	不安を吐露したパウエル議長とマイナス金利の足音
2020年5月12日	独憲法裁判所の判断とECB買い入れ近況について
2020年5月8日	アフターコロナはインフレか?デフレか?
2020年5月7日	アフターコロナで注目したい世界の「日本化」兆候
2020年5月1日	週末版(ECB政策理事会を終えて～形骸化する政策金利と「次の一手」～)
2020年4月28日	日銀金融政策決定会合を受けて～同調圧力への対応～
2020年4月24日	週末版(原油急落に感じる株・為替市場との差異～原油に「ごまかし」は効かず～)
2020年4月22日	拡張財政と「ドルの信認」～目先の下落は濃厚か?～
2020年4月21日	資本逃避スピードはリーマンショックの倍に～IMF報告～
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2020年3月分)
2020年4月17日	週末版(「The Great Lockdown」で最も傷が深いのは欧州か?～IMF世界経済見通し～)
2020年4月15日	ECBの「次の一手」はYCCも視野に～工夫も必要～
2020年4月14日	「超リスクオフ」から「リスクオフ」へ～改めて米金利を意識～
2020年4月10日	週末版(明らかになったECB資産購入の実情～このペースではあと半年が限度～)
2020年4月9日	英国のEU離脱はどこへ～移行期間は延長不可避の情勢～
2020年4月7日	「金利差なき世界」のあるべき視座～big picture～
2020年4月6日	「悲観の極み」の中で「光」をどう見出すべきか
2020年4月3日	週末版(「令和元年度 企業行動に関するアンケート調査」を受けて～かすかに暗雲漂う円相場～)
2020年4月2日	今でも「危機対応のフロントランナー」の日銀
2020年4月1日	過去最大のスタートダッシュを切ったECB
2020年3月30日	ドル高の裏にある新興国通貨安～半分はメキシコ由来～
2020年3月27日	週末版(EUが直面する「第三の危機」～債務、難民そして疫病～)
2020年3月26日	EUに楔を打ち込む中国～マスク外交と侮れず～
2020年3月25日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2020年2月分)
	リスクシナリオも繰り直し～日米金利差逆転というリスク～
2020年3月24日	「ドル化する世界」と新興国通貨の選別
2020年3月23日	「08年型のドル高」と円の「2大ステータス」
2020年3月19日	週末版(踏み込んだECB、パンデミック緊急資産購入プログラム～「抜かずの宝刀」も抜かれるのか?～)
2020年3月18日	FOMCレビュー～「不要不急で自滅」は予定通り?～